



さとのかぜ

No.195号

千葉県いすみ環境と文化のさと

2016年4月15日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

指定管理者 (一財) 千葉県環境財団

〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地

TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>



わずかに木漏れ日が射す森のなかで、たいへん小さな植物が花を咲かせていました。ヒメフタバラン(ラン科)です。2～3月に開く2枚の葉は幅約2cm。落ち葉に埋もれるほど小さく、初夏には葉を落とすため確認できる期間も短い、見つけづらい植物(多年草)です。踏みつけないように、慎重に観察しました。

県RDB*によれば、本種は照葉樹林、モミ林あるいはスギ林などに生え、清澄山、愛宕山およびその周辺から報告されている、とあります。写真の森にはモミの大木が点在し、また、木々にいろいろな植物が着生していることもあって、原生的な自然(奥山)を感じさせてくれます。一方、この森には伐採後萌芽したスダジイの大木や、炭焼き窯の跡も見られ、人が生活に利用した薪炭林だったことが分かります。かつての里山が、長い時を経て現在の森に移り変わってきたようです。

*千葉県レッドデータブック改定委員会編. 1999. 千葉県の保護上重要な野生生物 - 千葉県レッドデータブック - 植物・菌類編 2009年改定版. 千葉県環境部自然保護課

目次 1・ヒメフタバラン 2・センターの畑 3・夷隅の信仰・風俗・祭・伝統など⑩ 5・農機具今昔物語⑭ 6・れんこんの魅力
7・夷隅川流域よもやま話・ 8・南房総の「食」④ 9～10・行事報告 11・行事案内 12・センターの生き物たち

センターの畑～ダイコンの話～

センターの畑では、成長過程の観察、イベントの材料として季節に応じた野菜を栽培しています。その中で、代表的な野菜のひとつはダイコンです。ダイコンは、家庭で最も多く使われる野菜でもあり、千葉県の生産量は、北海道に次いで全国第2位(平成26年)です。本号では、そんなダイコンのお話です。

●ダイコンの品種

青首大根 (あおくびだいこん)

青首大根は、地中に浅く根を張り、成長とともに根の上部が地上に出てくるので日光を浴び、首部が青くなるので、青首大根と呼ばれています。甘く柔らかい肉質は、煮物にも生食にも向く万能型で、現在、主流を占めているダイコンです。

聖護院大根 (しょうごいんだいこん)

カブのような丸い形で、京都の伝統野菜として知られています。肉質はきめが細かく柔らかいので、煮物や生食に向きます。また、千枚漬けなどの漬け物にも多く利用されています。

三浦大根 (みうらだいこん)

神奈川県三浦半島の特産で、中央部がふくらんだ大型の大根です。首の部分まで白い「白首大根」で、甘味と辛味を持ち合わせます。漬け物にするとおいしく、また煮崩れしにくいので煮物にも向いています。

その他、桜島大根、亀戸大根、赤大根、紅芯大根、ラディッシュ(二十日ダイコン)など多くの種類があります。

●ダイコンの成分

大根には胃腸の働きを活性化するいくつかの酵素が含まれています。「アミラーゼ(ジアスターゼ)」はデンプンを分解する働きがあり胃もたれや胸焼けに効果があるといわれています。同じく消化を助ける「オキシターゼ」という酵素は発がん物質を解毒する作用があるといわれ、がん予防にも期待できます。辛味成分である「イソチオシアネート」は血液をサラサラにする作用があるとされています。

切り干し大根は、干すことにより水分が抜け旨味が凝縮され栄養価が高まります。生のものと切り干し大根の栄養価を比較すると、カリウムは約15倍、カルシウムは約20倍、食物繊維は約15倍、鉄分は約50倍にもなり

ます。また、葉にはβカロテン、ビタミンC、ビタミンK、葉酸などのビタミン、カリウム、カルシウムなどのミネラルといった多くの栄養素が含まれています。葉付き大根が手に入ったら葉の部分も調理して食べることをお勧めします。

●センターのダイコン

センターのダイコンは、収穫時期をずらすため、9月中旬及び10月初旬の二回に別けて種まきを行いました。品種は、千葉県などで広く栽培されている、青首ダイコンの「耐病総太り」としました。

栽培は、連作障害をなくすため、前年と異なる畑で、予め8月中旬に苦土石灰を散布し、完熟牛ふんを施した後、又根を防ぐため深くていねいに耕しました。さらに、種まきの一週間前に化成肥料を入れ、畝を作りました。

種まきは、株間25cm間隔で、ペットボトルの底を押し当てて植穴を作りました。一つの植穴に種を3～4粒播き1cmぐらい覆土し、たっぷり灌水しました。

種まき後、約1週間で発芽し、約20日後の本葉



5～6枚の時、1か所1株に間引きし、同時に追肥と、ぐらついて倒れないように株元へ土寄せを行いました。



その後は、適宜除草と土寄せなど行い、害虫などの被害にも合わず順調に成長し、センター行事「米作

り3・もちつきをしよう」で、味噌汁や辛み餅に利用しました。また、数日に別けて、来園された方に持ち帰っていただきました。



文：Y. T.

参考：「最新園芸大辞典」誠文堂新光社など

夷隅の信仰・風俗・祭り・伝統など（10） ～夷隅の大木（巨樹・巨木）～

「寄らば大樹」と申します。何か安心感がありますね。環境省では巨樹・巨木を定義しており、地上から約 1.3m（胸高）の位置で、幹周りが 3m 以上を「巨樹・巨木」と定めています。

スギ、クスノキ、イチヨウ、シイノキ、ケヤキなどの大木は、昔から村々の鎮守様やお寺などの御神木として崇められ大事に守られていたため生き残っているといえます。

日本で大木と言えばまず屋久島のスギが思い浮かびます。中でも国特別天然記念物の縄文杉は、樹齢 2 千～7 千年、胸高周囲 16.4m、樹高 25.3m、日本で最も太いスギの木です。凸凹の激しい幹は、江戸時代には建材として不向きであるとして伐採を免れたため残っているようです。また縄文杉が発見されるまで、最大の屋久杉と呼ばれた大王杉があります。樹齢 3 千年以上、胸高周囲 11.1m、樹高 24.7m で、縄文杉が知られるまでは、最大であったため大王と名付けられました。

県内で国の天然記念物に指定されている大木では、鴨川市天津にある清澄寺の大スギ、幹回り 14.15m、樹高 47m、推定樹齢 500 年、長南町の笠森寺にある子授け楠、幹回り 6.3m、樹高 20m、樹齢不明、このクスノキは根元部分に大きな穴があり、この穴をくぐり抜けると子供が授かると言われています。また同じ境内に三本スギがあります。幹回りは左スギが 5.1m、中スギ 4.3m、右スギ 4.4m、樹高はともに 25m、推定樹齢 400 年。香取市府馬にある宇賀神社の府馬のタブノキは、幹回り 8.6m、樹高 20m、推定樹齢 1,300 年があります。

夷隅郡市内にも大木は数多く存在しています。そのいくつかを紹介いたします。

① 高照寺ノ乳公孫樹（こうしょうじのちちいちょう）



勝浦市勝浦、日蓮宗伝光山高照寺境内の墓地、千葉県指定

天然記念物、雌株、目通り（地上から 1.7m）幹回り 10m、樹高 10m、推定樹齢千年。幹には長さ 30～40 cm の乳（気根）がたくさん垂れ下がっています。千余年の昔、聖僧がこの地で法華経読誦により、里人で乳不足で悩める婦人を治し、乳飲み子の成長を助けたと言う。「僧の死後、里人徳を偲び墓上に公孫樹を植えたところ、生長するにつれ乳柱を生じて、乳不足の者は来り詣でこれを治す効能顕著なり」とあります。

② 長福寺の榎（ちょうふくじのまき）

いすみ市下布施（硯） 天台宗硯山無量寿

院長福寺境内、千葉県指定天然記念物、目通り幹回り 4.8m、樹高 12m、推定樹齢



1,200 年。源頼朝が石橋山の戦いに敗れ、この地を訪れたときこのマキノキに筆を掛けたといわれ、「筆掛けの榎」と呼ばれています。枝ぶりがよく、盆栽のようなきれいな形をしています。

③ 植野村ノ大椎（うへのむらのおおじい）

勝浦市名木、日蓮宗寂光寺境内、千葉県指定天然記念物、目通り幹回り 8.9m、樹高 24m、推定樹齢 800 年。

この木は、スタシイで関東以西に広く分布しています



が、弘安 4 年（1281）以前からあり、寺伝によると日蓮聖人が在世当時もここに在り、寺院境内の主木であったとされています。県下でも有数な椎の木です。

④ 八乙女大杉（やおとめおおすぎ）

いすみ市八乙女 八乙女根尾神社境内、い



いすみ市指定天然記念物、目通り幹回り 5.65m、樹高 39.3m、推定年齢 400 年。

この神社

は、猿田彦命を祭神とし、元和元年（1615）創建と伝えられています。大杉は御神木として氏子から崇められ大事に守られています。

⑤ 国吉神社大銀杏（くによしじんじゃおおいちょう）

いすみ市苅谷、国吉神社境内社殿の裏、いすみ市指定天然記念物、雌株、幹回り 4.55m、樹高 27m、推定樹齢 400 年。小さい乳（気根）



があります。

国吉神社は、もと諏訪神社と称していましたが、明治 40 年に国

吉地区の各祭神が合社し国吉の地名をとって国吉神社と称するようになりました。神社の隣には、縁結びの神様である島根の出雲大社から分祀され、明治 24 年遷宮が行われた上総出雲大社があり、縁結、福德、開運の神として信仰されています。分祀された大社は、関東では二か所で、もう一社は相模原にあります。

⑥ 龍泉寺銀杏樹（りゅうせんじいちょうのき）

いすみ市大原（貝塚）、天台宗龍泉寺、いすみ市指定天然記念物、

目通り幹回り 3.6m、樹高 18m、推定樹齢 800 年。山門の両側に仁王立ちといった姿です。言い伝えによると、源頼朝に従った上総広常が名熊の殿台に築城し



た際、鬼門除けとして龍泉寺を現在の地に移転し、その際、広常自身が植えた銀杏の木とされています。

た際、鬼門除けとして龍泉寺を現在の地に移転し、その際、広常自身が植えた銀杏の木とされています。

⑦ 日月神社のホルトノキ（にちげつじんじゃのホルトノキ）

いすみ市新田、日月神社境内、幹回り 3.55m、樹高 23m、推定樹齢 200 年以上。

ホルト



ノキは、本州から沖縄にかけて沿海地の林内に生息する常緑高木で、千葉県以西に分布している。日月神社のホルトノキは、境内のスギの木に囲まれた林内に生育しています。根元から二株に分かれている双幹で、根元は浪打ながら板状に肥大している板根が発達しているため、特異な樹形となっています。

⑧ 法興寺の大カヤ（ほうこうじのおおかや）

いすみ市岩熊、天台宗医王山法興寺境内、

いすみ市指定天然記念物、幹回り 4.6m、樹高 20m、推定樹齢 300 年。カヤは、イチイ科の常緑針葉樹で宮城県、山形県以



南の本州、四国、九州の山地に生育している。木の材は黄色味を帯びており、木目はまっすぐに通り緻密で腐りにくい。このため建築、造船などの材料などに利用された。身近なところでは櫛、数珠などにも用いられ、碁盤や将棋盤の材料としては最高のものとされている。また種子は、強壮、強精の効能があるほか、油は切り傷にも効くとされている。江戸時代には庭に植えるべき「五木」に数えられていた。江戸の庭木で五木とは、モッコク、アカマツ、イヌマキ、カヤ、イトヒバといわれています。

文：M. O.

参考：現地説明板など

農機具今昔物語 その十四

時代の移り変わりに伴って、昔の農機具と今日の農機具とを、比較すると想像もできないほどの進歩がみられます。明治、大正時代の農具は人力、または畜力を利用した農機具だけでした。当センターには地元の方から寄贈された、貴重な人力等による昔の農具が展示されています。今回は昔使われた農具についておしらせします。

●足踏み式製縄機（あしぶみしきせいじょうき）



左側 細縄専用縄ない機
右側 太縄専用縄ない機

藁（わら）縄を綯（な）うために利用し、人力用及び動力用があります。荷作縄用の標準型のほか、蒾（むしろ）の縦縄をなうための細縄専用製縄機、ケバとり器付き、など色々な型があります。両足で交互に踏板を踏むと、ラップ管で藁によりをかけ回転する部分で綯い、できた縄はドラムに自動的にまきとられます。

明治時代以降に、手足を使う手編みからこの機械が使われるようになりました。センターにはこの足踏み式製縄機（縄ない機）が2台（太縄用専用機、細縄用専用機）展示してあります。細縄用縄ない機は、現在も現役で調整して調子よく縄をなうことができます。近隣の小学生が社会科見学の勉強で来館され、実際に藁うち機で藁を柔らかくするところから始めて、縄ない機で藁縄を綯う体験をしています。児童の皆さんは藁から縄ができることに大変関心をもたれる様子です。しかし古いものですから部品の調達が困難になりつつあり、突然の部品の破損がとても心配です。



藁によりをかける部分



児童を前に縄ない実演

●田植え定規



田植えの際、縦横を一定間隔にそろえる道具です。木製で重さは1.3 kgほど、軽くて一人で

扱えます。植え付ける際に水面での安定感を保つため、四隅には地面に刺す極細の棒があります。横1.73mの棒に、株間25cm間隔で植え付ける位置の目印が7箇所あり、180度回転させて前進していくことができます。縦棒の長さは55cmで、畝間は22cmほどです。この田植え定規は1回で21株の植え付け場所を、きれいに揃えることができます。

●台秤（だいばかり）



計量台の上に計量する物を置き、台の沈み込み量から重量を割り出す計量器です。分銅は5、10、20、50kg用の4種類。分銅を付けずに量れる重さは5kgで、すべての分銅を使うと最大90kgまで量ることができます。麻袋で米を出荷していた（農家の自家消費以外は供出米として政府に売り渡していた）時代は、農家ではこの台秤がよく使われていました。

文：T. S.

れんこんの魅力

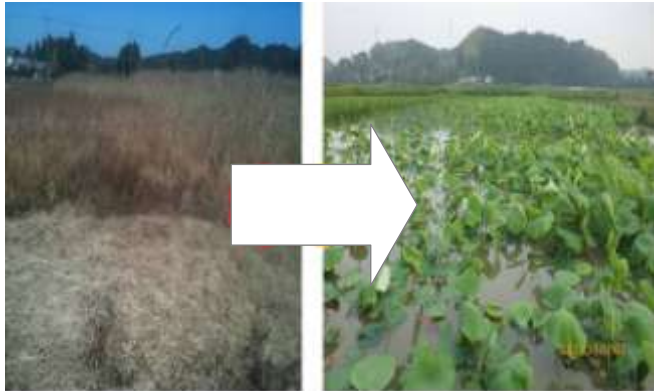
●魅惑的なレンコン

レンコンは、スイレン科の植物であるハスの地下茎が肥大したものです。蓮根(れんこん)＝根ではありません。土中深くもぐり生育の様子を観察することが難しいためか、研究が遅れていて、まだまだわかっていないことが多い作物です。そんな謎多きレンコンについて調べました。

●休耕田がそのまま活かせる

レンコンは、高温多日照を好む作物です。北海道や東北北部などの地域を除く多くの府県で栽培され、1位は茨城県の1,630ha、2位は徳島県の529ha、千葉県は全国8位で111haの面積で栽培が行われています¹⁾。

レンコンは耕土が深い土壌を好みます。排水の悪い田は適地です。一方、耕土が浅い水田でも、数年でレンコン栽培に適した深さ(60cm程)になるので、イネ田だけでなく休耕田でも、すぐにレンコンを栽培することができます。また逆に、ハス田から水田に戻すのも容易です。



休耕田

ハス田

●注目される健康機能

ハスは、中国では漢方薬として珍重されています。日本でもハスの薬効は古くから知られていて、徳川家康も注目していたと言われています。

よく知られているのが咳止めです。他にも、発がん予防や高血圧予防、花粉症などのアレルギー予防や免疫活性効果などなど、ここでは紹介しきれないほどの薬効が確認されています。

●景観・ビオトープとしても注目

ハスの花はとてもきれいです。一つ一つの

花が大きくて見応えがあり、レンコン畑に咲く



く様子は壮観です。当センターのハス田では、毎年7月ごろ大輪の花が一面に咲

きほこっています。ここ2年、イノシシの侵入被害にあい開花数は激減してしまいましたが、今年は簡易な対策を施したので回復してくれるものと期待しています。この季節にも是非、足をお運びください。早朝がおすすめです。

レンコン田は、年間を通して水量が豊富で、隠れ場所も多いので、水生生物にとっては絶好の生息環境となっています。イネ田に比べて湛水期間が長く、中干しもないので、特に



メダカ

メダカやドジョウなどの産卵に都合がいいのです。

ドジョウやメダカ、フナ、ナマズなどの魚

は、もともと田んぼのような浅い水たまりを探して産卵する性質があります。ところが水路整備が進んだ地域では、水路との落差が大きくなり、魚類が田んぼへ遡上できなくなっています。



整備工事後の水田水路

今回は、「レンコンってどんな野菜？」を紹介する予定です。

文：M. H.

参考文献

1) 平成25年度野菜生産出荷統計、農林水産省

■夷隅川流域よもやま話 ～その23・時間スケールの話①～

「時がたつのが早い遅いと感じる違いは何から生じるのだろうか？」そんな疑問をみなさん一度は考えたことがあるのではないのでしょうか。7才くらいの小さなこどもにとっては、1分間は長い時間です。一方人生経験を重ねた齢80才の老人には、1分間はあっという間に過ぎてしまう残り少ない貴重な時間ということになります。それでも目を閉じて黙想をすると、1分間はそれなりに長さを感じる時間なのではないのでしょうか。人間各自が過ごしてきた人生の長さに対応して、時間の長い短いが決まることは、感覚的に納得できるのではないのでしょうか。楽しい時間はあっという間に過ぎて短く、つらい時間はなかなか終わりにならず長いということもあります。

生きものによって寿命の長さはずいぶん違いがあります。ヒトは寿命が長い方で70～85年くらい、イヌは、大型犬で7、8年、小型犬で10数年。田んぼにいるニホンアマガエルは、せいぜい2、3年でしょう。水路に暮らすメダカ、アメリカザリガ

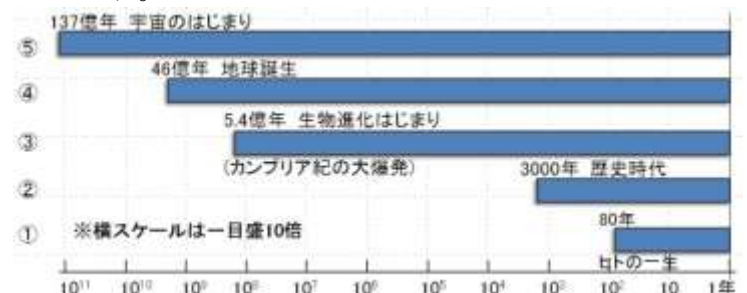
生きものの寿命の例

種名	寿命(年)	備考
ヒト	44～87	国連2010
イヌ	10程度	大型は短め
ゾウ	70程度	
クジラ	85程度	
トガリネズミ	1.5	哺乳類最短
カメ	15～100	大型は長い
スズメ	1～10	飼育下長い
ニワトリ	7～15	〃
オウム	30～50	〃
メダカ	1～5	〃
クマムシ	0.5	仮死、120年後も再生
ダニ	14日程度	
ベニクラゲ	死なない	若返り成長
ゾウリムシ	なし	接合、自家生殖

ニなどのセンターおなじみの小さな生きものたちも、数カ月からせいぜい2、3年くらい。樹木は屋久杉のように二千年以上生存しているといわれるものもあります。四季がある日本では冬を越せない多くの昆虫、草本などのように数カ月と寿命の短い生きものもいます。寿命の差があっても生きものたちは、次世代へと命を引き継いでいきます。種が存続されているという言いかたができます。宇宙の遠くから俯瞰してみれば、ほとんどの生きものたちは地球の表面にへばりつくようにして暮らしています。無機物にはない「命」を宿す有機物からなる生命体は、現在わかっているところで

は地球の表層だけに暮らしています。

いろいろな時間スケールの年表を考えてみます。①人の一生分に相当する80年くらいの時間スケール—[人物史年表]、②人間が記録を残した歴史として2000～4000年くらい—[歴史年表]、③地球に原子生命が誕生後、三葉虫や硬い殻を持つ動物が生まれ、生物が進化をし、ホモサピエンスが誕生するまでの5.4億年—[進化年表]、④ガスと微粒子が集合して地球という星が誕生し、海、陸、大気が生まれる約46億年—[地球の歴史年表]または[地質時代および生物の変遷の年表]、⑤宇宙の誕生、ビックバンから膨張を続ける137億年—[宇宙年表]があります。



5つの時間スケール

その中で④の[地球の歴史年表]について、下表で一年に縮めて比較をしてみます。

地球の歴史を一年の長さと比較した表

46億年	1月1日	ガスと微粒子があつまり星になる
45億年	1月10日	月が分離、誕生
40億年	2月15日	原始生命の誕生
27億年	5月31日	ラン藻が誕生。光合成で酸素放出
12億年	9月28日	多細胞生物誕生
7億年	11月6日	寒暖くり返し、やがて温暖化へ
6億年	11月14日	オゾン層の形成。クラゲなど出現
5.4億年	11月17日	生物が爆発的に増え、多様化
3億年	12月8日	爬虫類が繁栄
2.5億年	12月14日	恐竜時代。やがて大量絶滅
2億年	12月16日	原始的な哺乳類あらわる
1億年	12月25日	恐竜が繁栄。全盛期。のち絶滅
6500万年	12月27日	哺乳類が繁栄
3万年	3分前	ホモ・サピエンス誕生
5000年	35秒前	メソポタミア文明(1万年—縄文時代)
2020年	14秒前	キリスト誕生
148年	1秒前	明治維新 / 現在=12月31日 24:00:00

人や生きものの時間は、地球や宇宙の時間スケールに比べれば、ほんのわずかに過ぎません。

文：S.A

参考：生物図録、Web 各種年表など

南房総の「食」について(4)～フキノトウ～

早春を告げる草花の一つ「フキノトウ」。フキノトウを庭先で見かけると、春もそろそろだなと感じるのは皆一緒ではないだろうか。今回は春という季節を、食を通して感じることができる、フキノトウを使ったこの時期にしか味わう事の出来ない食材の料理方法を紹介する。

そもそもフキとは、キク科フキ属の多年草で日本原産の山菜で全国の山野に自生する。フキノトウはつぼみの部分にあたり、花が咲いた後には柄の長い大きな丸い葉が出る。春の季節を代表する山菜の一つとして、日本料理には欠かせない食材だ。

●フキみそ



短時間ゆでる



ゆでた後冷水に取る



水であらい、アクを抜く



じかめにする。

洗い終わったら、細かく刻んで水気をしぼる。次にすり鉢を用意し、炒りゴマをする。よくすり、ゴマの香りがしてきたら、砂糖、味噌、みりんを入れ良く混ぜる。その後刻んだフキノトウを入れ、よく和える。この調理法のほかにも、いためる調理法もある。



水気をしぼり細かくきざむ



すり鉢でゴマをする



搥りゴマ、砂糖、みそと茹でたフキノトウを和える



フキみそにフキの葉を添えて盛り付け

●ふきのとう みそ炒め

材料フキ(10個)、サラダ油、みそ、みりん、砂糖(各大さじ1)

フキノトウをゆでて刻むまでの行程は前述に同じ。フライパンを火にかけて熱してからサラダ油をひく。刻んで水気を切ったフキノトウをぎゅっとしぼり温める程度に中火でいためる。全体に油が行き渡ったら、みそ、みりん、砂糖を加え1分ほど混ぜながら煮詰める。少々大人の味だが、白いご飯のお供にも、酒の肴にもなる。ぜひ春の味を堪能していただきたい。

文：E. N.

《 行事報告 》

1月9日

米作り7・わらづと納豆を作ろう



わらづと納豆、「わらづ」と「納豆」ではありません。わらを束ね、中へ物を包むようにしたものを「わらづ」と言い、包まれるものが納豆なので、「わらづと納豆」と言います。

わらづとは、はかま取りした16本のわらを二つに折り、横方向に他のわらでミシン編みにし、最後にイボ結び(垣根結び)で止める方法で作ります。圧力釜で蒸し、納豆菌を混ぜた大豆をその中央に入れて閉じ、できるだけ暖かい場所で発酵させて24時間くらいで出来上がり。さて、出来栄はいかに。

1月23日

ススキでミニほうきをつくろう



身近な材料でおしゃれな小道具の制作です。最初にほうきの材料となるススキとオギの特徴や違い等について説明。材料によって硬軟など手触りなどが異なります。

自分で採取したススキやオギの穂の綿毛を丁寧にとり除きます。この作業が重要な作業工程の一つです。材料の穂の一部分に角度をつけるため、茎を蒸気にあてて軟らかくし、穂先をカットして揃え、いよいよ完成です。柄に布袋竹を使ったり、採取した茎を紐で丁寧に束ねて柄にしたり、大きさも人それぞれ。オンリーワンのほうきの完成です。

1月30日

里山の鳥の観察



雨天のため、一日順延しての開催です。センターで双眼鏡やフィールドスコープの使い方、のぞき方を再確認し、さっそく、センター北側の田んぼや西側の斜面林にいる野鳥を観察。万木堰や林道沿いの斜面林、そして万木城広場へと長い階段をのぼり上の広場に。帰りは万木の集落の中や田んぼを見て歩き、夷隅川を覗くなど、ちょっとしたハイキングも兼ねました。

趣旨は身近な鳥の観察会です。庭先や家の周りでの観察に役立つ知識が増えていけば幸いです。

2月11日

水辺の鳥の観察



数日吹き荒れた風も治まり、絶好の観察日和となりました。今回は夷隅川河口周辺での観察です。

暖かい陽気になったせいなのか、観察開始時にはヒバリが鳴いて迎えてくれました。夷隅川の支川三軒屋川では、水上でマガモ、カルガモ、コガモ、カワウなどが、空中には、ミサゴが飛んでいました。砂浜の浸食対策に置かれたテトラポットの上には、ウミネコ、シロカモメなどの海鳥が観察できました。最後に講師と参加者が、鳥合わせを行った結果、47種の鳥を観察することができました。



▲1/30 里山の鳥の観察 (出現順)
ツグミ、アオジ、アオサギ、カワセミ、ヒヨドリ、メジロ、シジュウカラ、エナガ、カルガモ、マガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ノスリ、コガモ、カイツブリ、ウミウ、ショウビタキ、モズ、カワラヒワ、ハシブトカラス、ハクセキレイ、セグロセキレイ、アカハラ、スズメ、カラス、モズ、ツグミ、アオサギ、カシラダカ、コゲラ、エナガ

▲2/11 水辺の鳥の観察 (出現順)
ヒバリ、モズ、ヒヨドリ、スズメ、ツグミ、コゲラ、シジュウカラ、オオジュリン、ホオジロ、ミサゴ、カワセミ、アオサギ、ノスリ、カルガモ、コガモ、マガモ、カンムリカイツブリ、カイツブリ、ハジロカイツブリ、ホシハジロ、オカヨシガモ、カワウ、ウミウ、トビ、イソシギ、クサシギ、ウミネコ、シロカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、スズガモ、オオバン、ダイサギ、ハシボツカラス、ハシブトガラス、ムクドリ、アオジ、キジバト、ウグイス、シロハラ、カワラヒワ、クサシギ、タシギ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、イソヒヨドリ、ヒドリガモ (左写真は、ミサゴ)

2月20日

そば打ち体験



身近な食品ではありますが、自分でそばを打ったことの無い方がほとんどではないでしょうか。そばうちを身近に感じてもらうため、毎年行っている人気行事です。

講師の実演を交えながら行う丁寧な解説で、参加者の方も真剣な表情。緊張をほぐそうと講師が参加者に声掛けをするなどして、和やかな雰囲気とともに行事は進行しました。最後は全員で試食。「おいしかった」「また開催して欲しい」と、好評でした。

3月6日

トウキョウサンショウウオの卵のうを見つけよう



少人数の参加ではありましたが、その分内容の濃い観察会となりました。まずは図書室にてプロジェクターを使用し、トウキョウサンショウウオの生態、卵のうと卵塊の違い、ニホンアカガエルの生態などを解説。その後実物を観察するために野外へ。

どのような場所に卵が産みつけられるのか、自分の目でつけてもらうようにしました。「実物を見られてよかった」「産卵場所の環境の違いを知ることができてよかった」など、具体的な感想も聞くことができました。

3月21日

花炭を作ろう



男女同数の参加で半分の方が花炭初体験です。資料を配布後、センター職員から詳しい説明をしました。持参材料に加え、この時期ならではの材料を探しに、野外へGO！その後、花炭の材料を空缶に詰めていきます。主な材料は、栗のイガ、松ぼっくり、どんぐり、ハスの花床、クルミ、落葉など。加えて、ツクシ、ボケの花、ハクモクレンの花、ヤツデの実、フキの花、なども。ディキャンプ場でおき火になった大きな焚火の中に缶を投入。

自分の缶は自分で火加減を見ながら管理しました。60～70分後に失敗はなく出来上がり。ステキ、楽しかった、また来たいと、感想をいただきました。

冬の星座観察は諸般の事情により中止となりました。

☆行事内容やセンターの日常を、センター日誌 (<http://isumisato.exblog.jp/>) にてご覧いただけます。

これからの行事案内

4月

●万木城の歴史と里山の自然観察

16日(土)10:00～15:00 定員20名 雨天中止
春の万木城周辺の歴史・自然を再発見しましょう。

場所:センターと万木の丘周辺

持物:弁当、飲料、山歩きできる服装



●米作り1・田植え体験をしよう

30日(土)9:30～13:30 定員30名 小雨決行
秋の収穫への第一歩。裸足で田んぼに入り、自分の手で苗を植えよう!

▲参加費:子ども200円大人300円

参加者は秋の稲刈り参加予約可

持物:弁当、飲料、着替え



6月

(4月1日から受付開始)

●センター内小川でのホタル観察①② 定員各20名

4日(土)・5日(日)19:15～20:00 小雨決行

ゲンジボタルが今年もセンターの小川で見られるかな?

持ち物:虫よけスプレー(必要な方)



●サフランの球根で飾り物をつくろう

25日(土)10:00～12:30 定員20名

サフランのことを学び、わらを使って球根の飾り物を作りましょう。11月頃咲く花からは、スパイスのサフランが収穫できます。

▲参加費:500円

持物:剪定バサミ、作業できる服装



5月

●センター内ホタルの水路で生きものを探そう

5日(木)10:00～12:00 定員20名 雨天中止

やがてゲンジボタルの舞う水路で、水辺の生きものを観察しよう!

持物:水の中で履く靴(サンダルは不可)、汚れてもよい服装



●岩船で磯の生き物観察をしよう

8日(日)9:30～12:30 定員20名

雨天中止

磯にはどんな生き物があるかな? 観察しよう!

場所:いすみ市岩船の磯

持ち物:飲物、軍手、帽子

水の中で履く靴(サンダル、長靴は不可)



●落花生の栽培体験をしよう

14日(土)10:00～12:00

定員8家族 小雨決行

花が地面に潜って実になる落花生を栽培。秋に収穫しよう。

収穫は10月10日9:30～12:30 予定。

適宜、観察や草取りをしてください。

▲参加費:600円

持物:長靴、作業のできる服装、軍手



●太東の岬で海辺の自然を観察しよう

22日(日)9:30～12:00 定員20名 雨天中止

太東の岬周辺を歩いて、海辺の自然(植物・地質など)を観察しよう

場所:太東岬周辺

持物:飲物、歩きやすい服装

7月

(5月1日から受付開始)

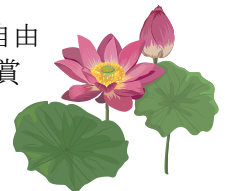
●ハス観賞週間

12日(火)～24日(日) 随時 見学自由

日の出と共に開花するハスの花を観賞

しましょう。どなたでも大歓迎!

この前後の週も見ごろのはずです。



●海辺の植物観察

18日(月)9:30～12:00 定員20名

小雨決行

場所:いすみ市の海岸

海辺の植物を観察しましょう。

持物:飲物、帽子、雨具



●センター内ホタルの水路で生きものを探そう



24日(日)、30日(土)9:30～11:30

各定員20名 雨天中止

ゲンジボタルが生息する水路で、水辺の生きものを観察しよう!

持物:水の中で履く靴(サンダルは不可)、汚れてもいい服装

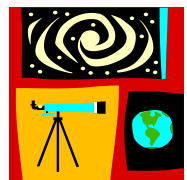
●夏の星座観察

31日(日)18:30～20:00 定員20名

雨天プログラムあり

夏の大きな三角形など夏の夜空の星座観察をしましょう。

持ち物:飲物、虫よけスプレー



- ✓ 申し込み方法は、電話、メール、FAX、直接センターで申し込むの4通りです。
- ✓ 申し込み後、参加できなくなった場合はお早めに必ずご連絡下さい。
- ✓ 天候等により予定を変更する場合があります。ホームページやブログでも発信します。

センターの生き物たち



ニホンミツバチ／ミツバチ科

本種はこの地域にもともと暮らしてきた在来種です。養蜂では本種が使われてきたのですが、蜂蜜の量が多いなどのメリットから、現在は外来のセイヨウミツバチがもっぱら使われています。さて、植物の受粉方法のなかで、昆虫によるものを虫媒といいます。虫媒花は花蜜や花粉で昆虫を集め、受粉を手助けしてもらいます。もしもミツバチ類などの昆虫が減り、植物の実りが減ってしまえば、自然にも人の暮らしにも問題が生じてしまうでしょう。



ハコネウツギ／スイカズラ科

4、5月の林道沿いの山裾では、マルバウツギ、ウツギ、コデマリなどの白い低木の花々がたくさん観察できます。5月の上旬を過ぎたころ、昆虫広場隣にある池のほわりには、同じ植物に2色の花が咲いているように見える落葉低木があります。よく観察してみると、咲き始めは白かった花冠と筒部が、やがて薄いピンク色、紅色へと変色していったということに気づかされます。観察と発見の楽しさを体感できる樹木です。海岸近くに生えて、庭にも植えられます。

いすみ楊枝 —千葉県伝統工芸品—

センターでは、「いすみ楊枝」を県内外に広く紹介するため、毎月高木守人氏に実演をお願いしています。

日時 毎月第3日曜日(9:30~16:00)
場所 ネイチャーセンター
講師 高木守人氏
参加料 材料費など実費いただきます
内容 楊枝・花入れ・茶杓作り など

編集後記

私の最近のリフレッシュ法はもっぱら房総の森を歩くことです。表紙の写真もその折の1コマです。房総には高い山などのランドマークが無く、天気が悪いと東西南北も分かりづらくなります。また、森ではサルやシカに会うことも多いのですが、希にイノシシにも。このため、風の強い日や川沿いなど自然音が大きい時には、特に気を使いながら歩いています。不安が頭をよぎると、リフレッシュにもなりませんね。自然は人をやさしく癒してくれませんが、厳しい顔を合わせ持つことを忘れないようにして、里山を歩くのであっても、地図や天気予報の確認、また各種状況を想定するうえ、慎重な行動に心がけています。 所長

行事への参加申し込み、お問い合わせは、電話(0470-86-5251)、メール(senta-sato@isumi-sato.com)、ファックス(0470-86-5252)、または、直接センター事務室にお申し出下さい。定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。ご了承下さい。行事はネイチャーセンターに一度集合してから移動します。

- * お申込み時は、参加者全員の氏名、住所、電話番号、お子さんの場合は年齢 をご記載ください。
- * メールやFAXでの申込みではセンターから返信が無い場合、送受信エラーを疑い、確認のお電話を下さい。
- * 行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ず早めにセンターまでご連絡下さい。

◆ ◆ ◆ 利用案内 ◆ ◆ ◆

休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日~翌年1月3日

開館時間：9:00~16:30、入館料：無料

※当施設のご案内や解説などを希望される団体は、2週間前までにお申し込み下さい。